

実施地域	長崎県全域	実施主体	長崎県
事業概要	長崎県は、国より早く2025年には老年人口のピークを迎え、生産年齢人口は2040年には5割を切ることが予測されており、労働力不足の進行、地域コミュニティの衰退など、様々な社会課題の顕在化が懸念されている。 そのため、県が市町と連携し民間を巻き込みながら、行政はもとより、民間も含めた各主体が有する多種多様なデータを集積・共有・活用する県下統合のデータ連携基盤を構築の上、地域間・分野間のデータ連携による全体最適化を図り、地域課題解決・産業振興・地域活性化に寄与し、Society5.0の実現を目指す。		

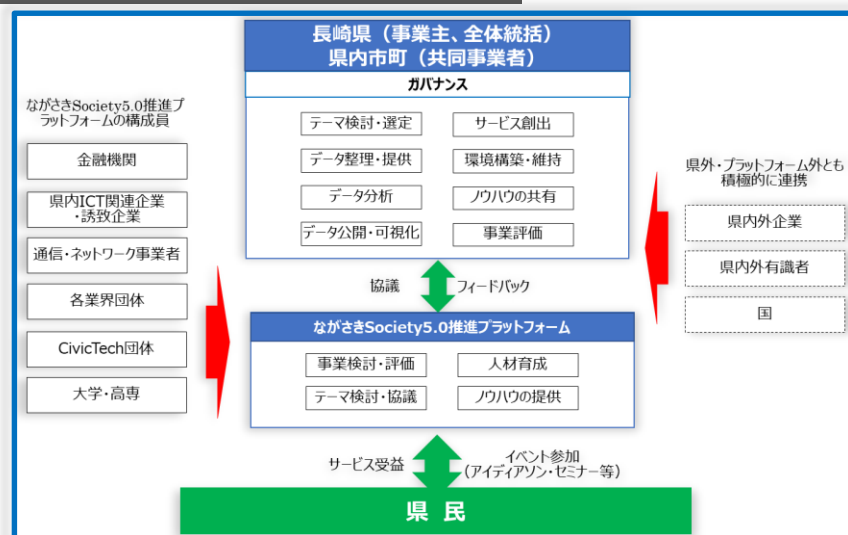
取組内容

令和3年度は、県と市町の行政データのオープン化を推進する。防災分野を注力テーマとし、避難所一覧や浸水想定区域や土砂災害想定区域等のデータをオープン化し連携する。さらに、気象観測データ等も取り込み、APIやダッシュボード（地図）で公開し、防災・減災のためのサービス向上に寄与する。

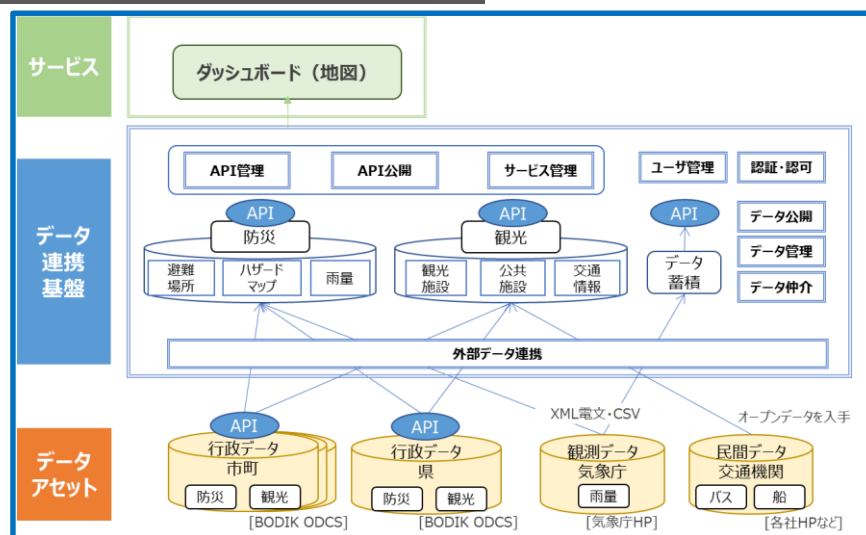
その他、長崎県の主要産業である観光分野にも取り組む。観光施設や交通機関の情報をオープン化し、地域住民、行政、各種サービスに提供する。



実施体制図



システム構成図



人吉市「ライティング防災アラートシステム」構築事業

2

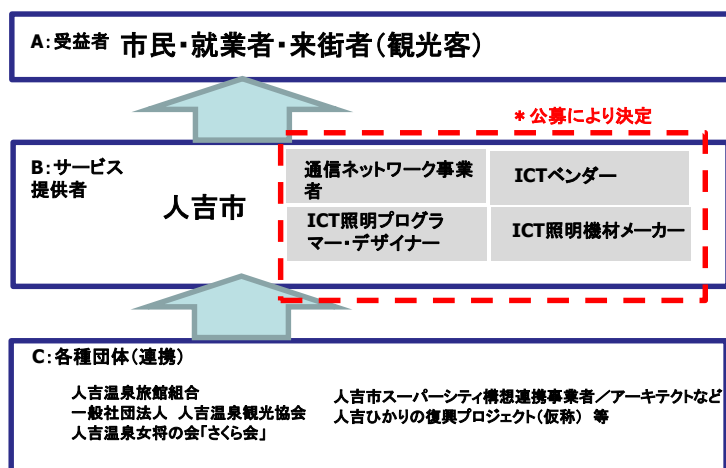
実施地域	熊本県人吉市	実施主体	人吉市
事業概要	当市は令和2年7月豪雨の球磨川水害により甚大な被害を受け、現在まさに復興の途上である。前回の豪雨時には防災行政無線が聞こえなかったという意見が多数あり、自然災害への対策及び住民への情報発信手法の確立は急務である。 これまでの防災行政無線（音声）やエリアメール（文字情報）による情報伝達だけでなく色彩の変化により、状況を視覚的なアプローチで伝え、多重性（リダンダンシー）を確保し、逃げ遅れゼロを目指す。		

取組内容

- ①ライティング防災アラート・・・橋梁の手すりと側面に、変色可能なLED照明を実装し、緊急時には照明の色彩の変化によって避難を促す視覚的なアラートとして活用する。国や県が提供する水位データ・気象データ等を基に発令される警報等や水位センサに応じて、クラウド経由で照明機器の変色を操作することを可能とする。自動操作（水位データ）・手動操作（スマホ等）での運用を可とし、本事業において最適な運用方法を探る。
- また、平時は表裏一体の取り組みとして、LED照明を観光コンテンツとして活用することで、全国に影響を及ぼしているコロナ禍と、多発する災害からの観光地域復興のモデルケース創造を目指す。
- ②人吉市防災ポータルサイト・・・上記の防災情報を別事業として構築する「人吉市防災ポータルサイト」を活用し、市民に随時アラートする。熊本県と連名で申請しているスーパーシティ型国家戦略特別区域に「H I T O Y O S H I R I V E R T Y 構想」として提案を行っており、今回のスマートシティ関連事業においては最小限のデータ連携基盤（パブリッククラウド+API）を構築し、スーパーシティ構想が採択された暁にはスーパーシティの仕様を満たすデータ連携基盤として整備する。



実施体制図



システム構成図

